

島根原子力発電所第2号機 審査資料	
資料番号	NS2-添 3-002-05(比)
提出年月日	2022年1月31日

先行審査プラントの記載との比較表
(VI-3-2-5 クラス3容器の強度計算方法)

2022年1月

中国電力株式会社

本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。

実線・・・設備運用又は体制等の相違（設計方針の相違）
 波線・・・記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■・・・補正時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-5 クラス3容器の強度計算方法）

東海第二発電所（2018.10.12版）	柏崎刈羽原子力発電所7号機（2020.9.25版）	島根原子力発電所 2号機	備考
比較表において、相違理由を類型化したものについて以下にまとめて記載する。下記以外の相違については、備考欄に相違理由を記載する。			
相違No.	相違理由		
①	島根2号機では「2.4 開放タンクの底板の計算」にて「円形平板の計算」を用いるため記載している		
②	島根2号機は左記の規格に基づき評価が必要となる設備はないため記載していない		
③	島根2号機はクラス3容器の評価に用いる記号のみを記載している		
④	島根2号機では胴の計算を行うクラス3容器が複数ある		
⑤	島根2号機では「PVD-3110 厚さの算出式に含まれている継手効率の値」が銅板の継手効率に関連するため記載している		
⑥	島根2号機のクラス3容器に用いている底板は平板のみである		
⑦	島根2号機は「VI-3-2-7 重大事故等クラス2容器の強度計算方法」と資料構成を併せており、3.2項及び3.3項で同様の評価を行っている旨を記載している		
⑧	島根2号機では左記の式を用いて評価するクラス3容器がない		
⑨	島根2号機のクラス3容器では、当該溶接形状は用いていない		
⑩	島根2号機で大きい穴を有するクラス3容器はない		
⑪	島根2号機で溶接部の強度計算が必要となるクラス3容器はない		
⑫	島根2号機で左記の計算が必要となるクラス3容器はない		

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p style="text-align: center;">VI-3-2-5 クラス 3 容器の強度計算方法</p> <p style="text-align: center;">目 次</p> <p>1. 一般事項 1</p> <p> 1.1 概要 1</p> <p> 1.2 適用規格及び基準との適合性 1</p> <p> 1.3 強度計算書の構成とその見方 1</p> <p> 1.4 計算精度と数値の丸め方 3</p> <p> 1.5 材料の表示方法 4</p> <p>2. クラス 3 容器の強度計算方法 5</p> <p> 2.1 共通記号 5</p> <p> 2.2 円形平板の計算 6</p> <p> 2.3 開放タンクの胴の計算 10</p> <p> 2.4 開放タンクの底板の計算 12</p> <p> 2.5 開放タンクの管台の計算 13</p> <p>3. 穴の補強計算 14</p> <p> 3.1 記号の説明 14</p> <p> 3.2 容器の穴の補強計算 16</p> <p> 3.3 開放タンクの胴の穴の補強計算 19</p> <p>別紙 容器の強度計算書のフォーマット</p>	<p>・設備の相違</p> <p>【東海第二, 柏崎 7】</p> <p>島根 2 号機では「2.4 開放タンクの底板の計算」にて「円形平板の計算」を用いるため記載している (以下, ①の相違)</p> <p>・設備の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>島根 2 号機は左記の規格に基づき評価が必要となる設備はないため記載していない (以下, ②の相違)</p>

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p>1. 一般事項</p> <p>1.1 概要</p> <p>本書は、<u>VI-3-1-4「クラス3機器の強度計算の基本方針」</u>に基づき、クラス3容器が十分な強度を有することを確認するための方法を説明するものである。</p> <p>1.2 適用規格及び基準との適合性</p> <p>(1) 強度計算は、発電用原子力設備規格（設計・建設規格（2005年版（2007年追補版含む。））J S M E S N C 1-2005/2007）（日本機械学会 2007年9月）（以下「設計・建設規格」という。）により行う。</p> <p>また、消火設備用ボンベ及び消火器については、<u>VI-3-1-4「クラス3機器の強度計算の基本方針」</u>に示すとおり、高圧ガス保安法又は消防法に適合したものを使用することとする。</p> <p>設計・建設規格各規格番号と強度計算書との対応は表1-1に示すとおりである。</p> <p>(2) 強度計算書で計算するもの以外のフランジは、以下に掲げる規格（材料に関する部分を除く。）又は設計・建設規格 別表2に掲げるものを使用する。（設計・建設規格 PVC-3700, PVD-3010）</p> <p>a. J I S B 2 2 3 8 (1996)「鋼製管フランジ通則」</p> <p>b. J I S B 2 2 3 9 (1996)「鋳鉄製管フランジ通則」</p>	<p>・設備の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>②の相違</p> <p>・設備の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>島根2号機では左記の規格に基づくフランジを使用していない</p> <p>・設備の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>②の相違</p>

1.3 強度計算書の構成とその見方

- (1) 強度計算書は、本書と各容器の強度計算書からなる。
- (2) 各容器の強度計算書では、記号の説明及び計算式を省略しているため、本書によるものとする。

表 1-1 設計・建設規格各規格番号と強度計算書との対応 (クラス 3 容器)

設計・建設規格 規格番号	強度計算書の 計算式 (章節番号)	備 考
PVD-3010 (クラス 2 容器の規定を準用する項の規定)		
PVD-3100 (容器の胴の規定) 準用 PVC-3160	3. 2	容器の穴の補強計算
PVD-3300 (容器の平板についての規定) PVD-3310	2. 2	円形平板の計算
PVD-3500 (開放タンクについての規定) 準用 PVC-3920 PVD-3510 準用 PVC-3950 PVC-3960 PVC-3970 PVC-3980	2. 3 3. 3 2. 4 2. 5	開放タンクの胴の計算 開放タンクの胴の穴の補強計算 開放タンクの底板の計算 開放タンクの管台の計算

- ・設備の相違
【東海第二, 柏崎 7】
①の相違
- ・設備の相違
【東海第二】
②の相違

1.4 計算精度と数値の丸め方
 計算の精度は 6 桁以上を確保する。
 表示する数値の丸め方は表 1-2 に示すとおりとする。

表 1-2 表示する数値の丸め方

数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁	
最高使用圧力 (開放タンク)	MPa	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位	
温度	℃	—	—	整数位	
許容応力*1	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位	
長さ	下記以外の長さ	mm m*2	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位
	計算上必要な厚さ	mm	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位
	最小厚さ	mm	小数点以下第3位	切捨て	小数点以下第2位
	ボルト谷径	mm	—	—	小数点以下第3位
	開放タンクの水頭 及び管台の内径	m	小数点以下第5位	四捨五入	小数点以下第4位
	ガスケット厚さ	mm	—	—	小数点以下第1位
面積	mm ²	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*3	
力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*3	
比	重	—	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位

注記*1: 設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における許容引張応力及び設計降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第 1 位を切り捨て、整数位までの値とする。ただし、許容引張応力及び設計降伏点が設計・建設規格 付録材料図表に定められた値の a 倍である場合は次のようにして定める。

(1) 比例法により補間した値の小数点以下第 2 位を切り捨て、小数点以下第 1 位までの値を a 倍する。

(2) (1) で得られた値の小数点以下第 1 位を切り捨て、整数位までの値とする。

*2: 開放タンクの内径

*3: 絶対値が 1000 以上のときはべき数表示とする。

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考						
		<p>1.5 材料の表示方法</p> <p>材料は次に従い表示するものとする。</p> <p>(1) 設計・建設規格に定める材料記号を原則とする。 <u>設計・建設規格に記載されていないが設計・建設規格に相当材が記載されている場合は、次のように表示する。</u> <u>相当材記号 相当 (当該材記号)</u> <u>(例 1) SM400A 相当 (SMA400AP)</u> <u>(例 2) SCM3-1 相当 (ASME SA387 Gr. 11C1. 1)</u></p> <p>(2) 管材の許容引張応力の値は継目無管, 電気抵抗溶接管及び鍛接管等, 製造方法により異なる場合があるため材料記号の後に“-”を入れ, その製法による記号を付記して表示する。 (例) STPT410-S (継目無管の場合)</p> <p>(3) 強度区分により許容引張応力が異なる場合, 材料記号の後に J I S で定める強度区分を付記して表示する。 (例)</p> <table border="1" data-bbox="1745 982 2496 1220"> <thead> <tr> <th>設計・建設規格の表示</th> <th>計算書の表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SCMV3 [付録材料図表 Part5 表5 の許容引張応力の上段]</td> <td>SCMV3-1</td> </tr> <tr> <td>SCMV3 [付録材料図表 Part5 表5 の許容引張応力の下段]</td> <td>SCMV3-2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 使用する厚さ又は径等によって許容引張応力の値が異なる場合, 材料記号の後に該当する厚さ又は径等の範囲を付記して表示する。 (例) S45C (直径 40mm 以下)</p> <p>(5) 熱処理によって許容引張応力の値が異なる場合, 材料記号の後に J I S に定める熱処理記号を付記して表示する。 (例) SUS630 H1075 (固溶化熱処理後 570~590℃空冷の場合)</p>	設計・建設規格の表示	計算書の表示	SCMV3 [付録材料図表 Part5 表5 の許容引張応力の上段]	SCMV3-1	SCMV3 [付録材料図表 Part5 表5 の許容引張応力の下段]	SCMV3-2	
設計・建設規格の表示	計算書の表示								
SCMV3 [付録材料図表 Part5 表5 の許容引張応力の上段]	SCMV3-1								
SCMV3 [付録材料図表 Part5 表5 の許容引張応力の下段]	SCMV3-2								

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
		<p>(6) ガasket材料で非石綿の場合の表示は以下とする。</p> <p>(例) 非石綿ジョイントシート</p> <p>渦巻形金属ガasket (非石綿) (ステンレス鋼)</p> <p>平形金属被覆ガasket (非石綿板) (ステンレス鋼)</p> <p>なお, この場合のガasket係数m及びガasketの最小設計締付圧力yは, J I S B 8 2 6 5 附属書3 表2 備考3より, ガasketメーカ推奨値を適用する。</p>	

2. クラス 3 容器の強度計算方法

発電用原子力設備のうちクラス 3 容器の強度計算に用いる計算式と記号を以下に定める。

2.1 共通記号

特定の計算に限定せず、一般的に使用する記号を共通記号として次に掲げる。

なお、以下に示す記号のうち、各計算において説明しているものはそれに従う。

設計・建設規格の記号	計算書の表示	表 示 内 容	単 位
P	P	最高使用圧力	MPa
η	η	継手の効率 クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3110 に規定している継手の種類に応じた効率を使用する。	—
	継手の種類		
	継手無し	同左	—
	突合せ両側溶接	同左	—
	放射線検査の有無		
	有り	発電用原子力設備規格 (溶接規格 J S M E S N B 1 - 2 0 0 1) (日本機械学会 2001 年 2 月) N-3140 及び N-4140 (N-1100(1)a. 準用) の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格の規定に適合するもの	—
	無し	その他のもの	—

・記載方針の相違

【東海第二】

島根 2 号機はクラス 3 容器の評価に用いる記号のみを記載している (以降, ③の相違)

2.2 円形平板の計算

クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3310 を適用する。

(1) 記号の説明

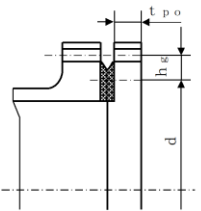
設計・建設規格 又は J I S の記号	計算書の 表示	表 示 内 容	単 位
A _b	A _b	実際に使用するボルトの総有効断面積	mm ²
A _m	A _m	ボルトの総有効断面積	mm ²
A _{m1}	A _{m1}	使用状態でのボルトの総有効断面積	mm ²
A _{m2}	A _{m2}	ガスケット締付時のボルトの総有効断面積	mm ²
b	b	ガスケット座の有効幅	mm
b _o	b _o	ガスケット座の基本幅 (J I S B 8 2 6 5 附属書3 表3による。)	mm
C	C	ボルト穴の中心円の直径	mm
d, G	d	クラス 3 容器は設計・建設規格 表PVD-3310-1に規定する方法によって測った平板の径又は最小内のり (ガスケットの場合 d = G)	mm
d _b	d _b	ボルトのねじ部の谷の径と軸部の径の最小部のいずれか小さい方の径	mm
F	F	全体のボルトに作用する力	N
G	G	ガスケット反力円の直径	mm
	G _s	ガスケット接触面の外径	mm
H	H	内圧によってフランジに加わる全荷重	N
h _c	h _c	ボルト穴の中心円からガスケット荷重作用点までの半径方向の距離	mm
h _g	h _g	モーメントアームでボルトのピッチ円の直径と d との差の2分の1	mm
H _p	H _p	気密を十分に保つために、ガスケットに加える圧縮力	N
K	K	平板の厚さ計算における取付け方法による係数	—
m	m	ガスケット係数 (J I S B 8 2 6 5 附属書3 表2による。)	—
N	N	ガスケットの接触面の幅 (J I S B 8 2 6 5 附属書3 表3による。)	mm
n	n	ボルトの本数	—

・設備の相違
【東海第二, 柏崎 7】
①の相違

設計・建設規格 又は J I S の記号	計算書の 表示	表 示 内 容	単 位
S	S	内圧時の最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5又は表6による。	MPa
σ_a	S a	常温におけるボルト材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表7による。	MPa
σ_b	S b	最高使用温度におけるボルト材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表7による。	MPa
t	t	平板の計算上必要な厚さ	mm
	t p	平板の最小厚さ	mm
	t p o	平板の呼び厚さ	mm
W	W	パッキンの外径又は平板の接触面の外径内の面積に作用する全圧力	N
W _g	W _g	ガスケット締付時のボルト荷重	N
W _{m1}	W _{m1}	使用状態での必要な最小ボルト荷重	N
W _{m2}	W _{m2}	ガスケット締付時に必要な最小ボルト荷重	N
W _o	W _o	使用状態でのボルト荷重	N
y	y	ガスケットの最小設計締付圧力 (J I S B 8 2 6 5 附属書3 表2による。)	N/mm ²
π	π	円周率	—
	ガスケット 座面の形状	ガスケット座面の形状 (J I S B 8 2 6 5 附属書3 表3による。)	—

・設備の相違
【東海第二, 柏崎 7】
①の相違

(2) 形状の制限

取 付 け 方 法	形 状 の 制 限
(n) 	無し

(3) 算式

平板の計算上必要な厚さは、次の式による値とする。

a. 平板に穴がない場合

$$t = d \cdot \sqrt{\frac{K \cdot P}{S}}$$

Kの値は以下による。

取付け方法	K の 値
(n)	$0.20 + \frac{1.0 \cdot F \cdot h_g}{W \cdot d}$ *

注記* : F, h_g, W及びdは以下による。

(a) ガasket座の有効幅及びガasket反力円の直径

ガasket座の有効幅b及びガasket反力円の直径Gは、ガasket座の基本幅b_oに従い以下のよう求める。

b_o > 6.35mmの場合

$$b = 2.52 \cdot \sqrt{b_o}$$

$$G = G_s - 2 \cdot b$$

b_oはJIS B 8265 附属書3 表3による。

$$d = G$$

(b) 計算上必要なボルト荷重

イ. 使用状態で必要なボルト荷重

$$W_{m1} = H + H_p$$

$$H = \frac{\pi}{4} \cdot G^2 \cdot P$$

$$W = H$$

$$H_p = 2 \cdot \pi \cdot b \cdot G \cdot m \cdot P$$

ロ. ガasket締付時に必要なボルト荷重

$$W_{m2} = \pi \cdot b \cdot G \cdot y$$

(c) ボルトの総有効断面積及び実際に使用するボルトの総有効断面積

$$A_{m1} = W_{m1} / S_b \text{ (使用状態)}$$

$$A_{m2} = W_{m2} / S_a \text{ (ガasket締付時)}$$

$$A_m = \text{Max}(A_{m1}, A_{m2})$$

$$A_b = \frac{\pi}{4} \cdot d_b^2 \cdot n$$

・設備の相違
【東海第二, 柏崎 7】
①の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p>(d) フランジの計算に用いるボルト荷重 $W_o = W_{m1}$ (使用状態) $W_g = (A_m + A_b) \cdot S_a / 2$ (ガスケット締付時) $F = \text{Max}(W_o, W_g)$</p> <p>(e) 使用状態でのフランジ荷重に対するモーメントアーム $h_g = (C - G) / 2$</p> <p>(4) 評価 平板の最小厚さ (t_p) \geq 平板の計算上必要な厚さ (t) ならば十分である。</p>	<p>・設備の相違 【東海第二, 柏崎 7】 ①の相違</p>

2.3 開放タンクの胴の計算

クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110 (設計・建設規格 PVC-3920 準用) を適用する。

(1) 記号の説明

設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位
D_i	D_i	胴の内径	m
H	H	水頭*	m
S	S	最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5又は表6による。	MPa
	t	胴に必要な厚さ	mm
t	t_1	胴の規格上必要な最小厚さ	mm
	t_2	胴の計算上必要な厚さ	mm
	t_3	胴の内径に応じた必要厚さ	mm
	t_s	胴の最小厚さ	mm
	t_{so}	胴の呼び厚さ	mm
ρ	ρ	液体の比重。ただし、1.00未満の場合は1.00とする。	—

注記*：開放タンクの水頭の取り方は、強度評価上は次のいずれかとする。

a. タンク上部フランジ上端又はタンク胴板上端より底板内側まで

b. 底板に管台が取り付けの場合は、第1溶接継手まで



a 項の場合

b 項の場合

なお、この水頭の取り方は、底板及び管台の計算で用いる水頭も同じである。

・設備の相違
【東海第二, 柏崎 7】
島根 2 号機では胴の計算を行うクラス 3 容器が複数ある (以下, ④の相違)

・記載方針の相違
【柏崎 7】
島根 2 号機では「PVD-3110 厚さの算出式に含まれている継手効率の値」が銅板の継手効率に関連するため記載している (以下, ⑤の相違)

・記載方針の相違
【東海第二, 柏崎 7】
島根 2 号機では本注記による水頭の取り方を行っているため, 重大事故等クラス 2 容器の強度計算方法との整合を図り, 記載をしている

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
		<p>(2) 算式</p> <p>開放タンクの胴に必要な厚さは、次に掲げる値のうちいずれか大きい値とする。</p> <p>a. 規格上必要な最小厚さ：t_1</p> <p>炭素鋼鋼板又は低合金鋼鋼板で作られた場合は 3mm，その他の材料で作られた場合は 1.5mm とする。</p> <p>b. 胴の計算上必要な厚さ：t_2</p> $t_2 = \frac{D_i \cdot H \cdot \rho}{0.204 \cdot S \cdot \eta}$ <p>c. 胴の内径に応じた必要厚さ：t_3</p> <p>胴の内径が 5m を超えるものについては、胴の内径の区分に応じ設計・建設規格 表 PVC-3920-1 より求めた胴の厚さとする。</p> <p>(3) 評価</p> <p>胴の最小厚さ (t_s) \geq 胴に必要な厚さ (t) ならば十分である。</p>	

2.4 開放タンクの底板の計算

クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 (設計・建設規格 PVC-3960 及び PVC-3970 準用) を適用する。

(1) 記号の説明

設計・建設規格の記号	計算書の表示	表 示 内 容	単 位
H	H	水頭	m
P	P	最高使用圧力	MPa
	t	底板の規格上必要な厚さ	mm
	t b	底板の最小厚さ	mm
	t b o	底板の呼び厚さ	mm
ρ	ρ	液体の比重。ただし、1.00未満の場合は1.00とする。	—

下記 (3)b 項の場合の記号の説明で上記以外の記号については、平板の項を参照のこと。

(2) 形状の制限

平板であること。

(3) 算式

開放タンクの底板に必要な厚さは次によるものとする。

a. 地面、基礎等に直接接触するものの厚さ：t

クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 により 3mm 以上とする。

b. 上記以外のものの底板に必要な厚さ：t

クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 (設計・建設規格 PVC-3970 (2) 準用) を適用する。

ここで、最高使用圧力 P は次の式による値とする。

$$P = 9.80665 \times 10^{-3} \cdot H \cdot \rho$$

・設備の相違
【東海第二，柏崎 7】
④の相違

・設備の相違
【東海第二，柏崎 7】
島根 2 号機のクラス 3 容器に用いている底板は平板のみである (以下，⑥の相違)

・設備の相違
【東海第二，柏崎 7】
⑥の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p>(a) 平板 <u>クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 (設計・建設規格 PVC-3970(2) 準用) より, 設計・建設規格 PVC-3310 を準用する。</u> <u>2.2 項「円形平板の計算」による厚さとする。</u></p> <p>(4) 評価 底板の最小厚さ (t_b) ≥ 底板に必要な厚さ (t) ならば十分である。</p>	<p>・設備の相違 【東海第二, 柏崎 7】 ①の相違</p>

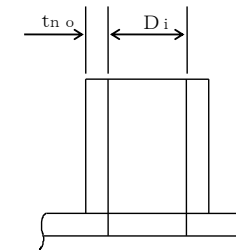
2.5 開放タンクの管台の計算

クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110 (設計・建設規格 PVC-3980 準用) を適用する。

(1) 記号の説明

設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位
D_i	D_i	管台の内径*	m
H	H	水頭	m
S	S	最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5又は表6による。	MPa
t	t	管台に必要な厚さ	mm
	t_1	管台の計算上必要な厚さ	mm
	t_2	管台の規格上必要な最小厚さ	mm
	t_n	管台の最小厚さ	mm
	t_{no}	管台の呼び厚さ*	mm
ρ	ρ	液体の比重。ただし、1.00未満の場合は1.00とする。	—

注記* : 管台の内径及び呼び厚さは、下図参照



注 : 本図は、管台の内径及び呼び厚さの寸法を説明するものであり、管台の取付け形式を示すものではない。

(2) 算式

開放タンクの管台に必要な厚さは、次に掲げる値のうちいずれか大きい値とする。

a. 管台の計算上必要な厚さ : t_1

$$t_1 = \frac{D_i \cdot H \cdot \rho}{0.204 \cdot S \cdot \eta}$$

b. 規格上必要な最小厚さ : t_2

管台の外径に応じ設計・建設規格 表 PVC-3980-1 より求めた管台の厚さとする。

(3) 評価

管台の最小厚さ (t_n) \geq 管台に必要な厚さ (t) ならば十分である。

・設備の相違
【東海第二, 柏崎 7】
④の相違

3. 穴の補強計算

・資料構成の相違
【東海第二, 柏崎 7】
 島根 2 号機は「VI-3-2-7 重大事故等クラス 2 容器の強度計算方法」と資料構成を併せており, 3.2 項及び 3.3 項で同様の評価を行っている旨を記載している (以下, ⑦の相違)

3.1 記号の説明

・記載方針の相違
【東海第二, 柏崎 7】
 ③の相違

設計・建設規格の記号	計算書の表示	表 示 内 容	単 位
A	A ₀	補強に有効な総面積	mm ²
	A ₁	胴の部分の補強に有効な面積	mm ²
	A ₂	管台の部分の補強に有効な面積	mm ²
	A ₃	すみ肉溶接の部分の補強に有効な面積	mm ²
A _r	A ₄	強め板の部分の補強に有効な面積	mm ²
	A _r	穴の補強に必要な面積	mm ²
d	B _e	強め板の外径	mm
	d	胴の断面に現われる穴の径	mm
	d _j	大きい穴の補強を要する限界径	mm
	d _w	管台の取り付く穴の径 (完全溶込み溶接により溶接された管台については, $d_w = D_{on} + \alpha$ (α はルート間隔の2倍), それ以外の管台については, $d_w = D_{on}$)	mm
D _i	D _i	円筒胴にあつては胴の内径	mm
	D _{on}	管台の外径	mm
F	F	係数	—
	L ₁	溶接の脚長*	mm
	L ₂	溶接の脚長*	mm
	L ₃	溶接の脚長*	mm
S _e	S _e	強め板材の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5又は表6による。	MPa

設計・建設規格の記号	計算書の表示	表 示 内 容	単 位
S	S_n	管台材の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5又は表6による。	MPa
S	S_s	胴板材の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5又は表6による。	MPa
	t_e	強め板の最小厚さ	mm
t_n	t_n	管台の最小厚さ	mm
	t_{no}	管台の呼び厚さ	mm
t_{nr}	t_{nr}	管台の計算上必要な厚さ	mm
t_s	t_s	胴の最小厚さ	mm
t_{sr}	t_{sr}	胴の継目がない場合の計算上必要な厚さ	mm
	W	溶接部の負うべき荷重	N
	W_1	$W_1 = (A_2 + A_3 + A_4) \cdot S_s$	N
	W_2	$W_2 = (d_w \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$	N
	WELD-	管台溶接形式 (図3-1を参照)	—
	X	補強の有効範囲 (胴の面に沿った方向)	mm
	X_1	補強の有効範囲	mm
	X_2	補強の有効範囲	mm
	Y_1	補強の有効範囲 (胴より外側)	mm
	Y_2	補強の有効範囲 (胴より内側)	mm
η	η	穴が長手継手を通る場合はその継手の効率。その他の場合は1.00	—

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p data-bbox="1736 1827 2510 1900">注記* : <u>クラス 3 容器</u>については設計・建設規格 図 PVD-4112-3 による。</p>	

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p>3.2 容器の穴の補強計算</p> <p><u>容器に穴を設ける場合は以下の手順により補強計算を行う。</u> <u>なお、穴の補強計算上必要のない強め板を取り付けるものもあるが、その場合は強め板があるものとして計算する。</u></p> <p>(1) 胴の場合</p> <p><u>クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110 (設計・建設規格 PVC-3160 準用) を適用する。</u></p> <p>a. 管台の形式</p> <p>図 3-1 に管台の形式、補強に有効な面積、補強に必要な面積、破断形式等を示す。</p> <p>ただし、すみ肉溶接部分の破断箇所については、両方の脚長が等しいため、片側の脚長の破断形式のみを図示する。</p> <p>b. 穴の補強</p> <p>(a) 補強に必要な面積</p> <p><u>クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 (設計・建設規格 PVC-3161.3 準用) を適用する。</u></p> <p>イ. 円筒形の胴の場合</p> <p>(イ) 管台の一部が胴の部分となっている場合</p> $A_r = d \cdot t_{sr} \cdot F + 2 \cdot (1 - S_n / S_s) \cdot t_{sr} \cdot F \cdot t_n$ <p>($S_n / S_s > 1$ の場合は $S_n / S_s = 1$ とする。以下胴の場合において同じ。)</p> <p>(b) 補強に有効な範囲</p> <p><u>クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 (設計・建設規格 PVC-3161.1 準用) を適用する。</u></p> $X = X_1 + X_2$ $X_1 = X_2 = \text{Max} (d, d/2 + t_s + t_n)$ $Y_1 = \text{Min} (2.5 \cdot t_s, 2.5 \cdot t_n + t_e)$ $Y_2 = \text{Min} (2.5 \cdot t_s, 2.5 \cdot t_n)$ <p>ただし、構造上計算した有効範囲がとれない場合は、構造上取り得る範囲とする。</p> <p>また、強め板がない場合には $t_e = 0$ とする。</p>	<p>・資料構成の相違 【東海第二，柏崎 7】 ⑦の相違</p> <p>・設備の相違 【東海第二，柏崎 7】 島根 2 号機では左記の式を用いて評価するクラス 3 容器がない(以下，⑧の相違)</p>

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p>(c) 補強に有効な面積 <u>クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110 (設計・建設規格 PVC-3161.2 準用) を適用する。</u></p> <p>イ. 胴の部分の補強に有効な面積</p> <p>(イ) 管台の一部が胴の部分となっている場合 $A_1 = (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot (X - d) - (1 - S_n / S_s) \cdot (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot 2 \cdot t_n$</p> <p>ロ. 管台の部分の補強に有効な面積 (イ) 管台が胴の内側に突出していない場合 $A_2 = 2 \cdot (t_n - t_{nr}) \cdot Y_1 \cdot S_n / S_s$ (ロ) 管台が胴の内側に突出している場合 $A_2 = 2 \cdot \{(t_n - t_{nr}) \cdot Y_1 + t_n \cdot Y_2\} \cdot S_n / S_s$ ただし, $t_{nr} = \frac{P \cdot (D_{on} - 2 \cdot t_n)}{2 \cdot S_n - 1.2 \cdot P}$</p> <p>ハ. すみ肉溶接の部分の補強に有効な面積 $A_3 = L_1 \cdot L_1 + L_2 \cdot L_2 + L_3 \cdot L_3$ ただし, 補強の有効範囲にないすみ肉溶接の部分は除く。</p> <p>ニ. 強め板の部分の補強に有効な面積 $A_4 = \{\text{Min}(B_e, X) - D_{on}\} \cdot t_e \cdot S_e / S_s$ ($S_e / S_s > 1$ の場合は $S_e / S_s = 1$ とする。以下胴の場合において同じ。)</p> <p>ホ. 補強に有効な総面積 $A_0 = A_1 + A_2 + A_3 + A_4$</p>	<p>・設備の相違 【東海第二, 柏崎 7】 ⑦の相違</p> <p>・設備の相違 【東海第二】 島根 2 号機のクラス 3 容器では, 当該溶接形状は用いていない (以下, ⑨の相違)</p>

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
		<p>(d) 補強に有効な範囲 $X_1 \neq X_2$ の場合の補強に有効な面積の確認</p> <p>クラス3容器については設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110 (設計・建設規格 PVC-3165 準用) を適用する。</p> <p>補強に必要な面積の2分の1以上の補強に有効な面積は穴の中心線の両側にある必要がある。</p> <p>ただし、補強に有効な範囲 $X_1 = X_2$ の場合は上記条件を満足することが明らかであり、以下の計算は行わない。</p> <p>イ. 補強に必要な面積の2分の1</p> $A_{rD} = A_r / 2$ <p>ロ. X_1 又は X_2 のいずれか小さい方の断面における補強に有効な面積</p> <p>(イ) 胴の部分の補強に有効な面積</p> <p>管台の一部分が胴の部分となっていない場合及び WELD-8, 22 の場合</p> $A_{1D} = (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot \{\text{Min}(X_1, X_2) - d/2\}$ <p>管台の一部分が胴の部分となっている場合</p> $A_{1D} = (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot \{\text{Min}(X_1, X_2) - d/2\} - (1 - S_n/S_s) \cdot (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot t_n$ <p>(ロ) 管台の部分の補強に有効な面積</p> $A_{2D} = A_2 / 2$ <p>(ハ) すみ肉溶接の部分の補強に有効な面積</p> $A_{3D} = A_3 / 2$ <p>(ニ) 強め板の部分の補強に有効な面積</p> $A_{4D} = A_4 / 2$ <p>(ホ) 補強に有効な総面積</p> $A_{0D} = A_{1D} + A_{2D} + A_{3D} + A_{4D}$	

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p>c. 大きい穴の補強</p> <p>クラス3容器については設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110 (設計・建設規格 PVC-3164 準用) を適用する。</p> <p>(a) 大きい穴の補強を要する限界径</p> <p>イ. D_i が 1500mm を超える場合</p> $d_j = D_i / 3$ <p>ただし, 1000mm を超える場合は 1000mm とする。</p> <p>ここで, $d \leq d_j$ の場合は大きい穴の補強計算は必要ない。</p>	<p>・設備の相違</p> <p>【東海第二, 柏崎 7】</p> <p>島根 2 号機では, 当該寸法の胴の内径を有するクラス 3 容器はない</p> <p>・設備の相違</p> <p>【東海第二, 柏崎 7】</p> <p>島根 2 号機で大きい穴を有するクラス 3 容器はない (以下, ⑩の相違)</p>

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p>d. 溶接部の強度</p> <p>クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010 (設計・建設規格 PVC-3168 及び PVC-3169 準用) を適用する。</p> <p>(a) 溶接部の負うべき荷重</p> <p>次の 2 つの計算式 (W_1 及び W_2) により求めた荷重のうちいずれか小さい方</p> $W_1 = (A_2 + A_3 + A_4) \cdot S_s$ <p>管台の一部が胴の部分となっている場合</p> $W_2 = (d_w \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$ <p>よって, $W = \text{Min}(W_1, W_2)$</p> <p>ここで, $W < 0$ の場合は溶接部の強度計算は必要ない。</p>	<p>・設備の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>⑧の相違</p> <p>・設備の相違</p> <p>【東海第二, 柏崎 7】</p> <p>島根 2 号機で溶接部の強度計算が必要となるクラス 3 容器はない (以下, ⑩の相違)</p> <p>・設備の相違</p> <p>【東海第二, 柏崎 7】</p> <p>⑩の相違</p>

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			<ul style="list-style-type: none"> ・設備の相違 【東海第二, 柏崎 7】 ①の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			<ul style="list-style-type: none"> ・設備の相違 【東海第二, 柏崎 7】 ①の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2 号機	備考
		<p>e. 評価 胴の穴の補強は下記の条件を満足すれば十分である。 $A_0 > A_r$ $A_{0D} \geq A_{rD}$ (ただし, $X_1 \neq X_2$ の場合のみ)</p> <p>3.3 開放タンクの胴の穴の補強計算 クラス 3 容器については設計・建設規格 PVD-3010, PVD-3110 及び PVD-3510 (設計・建設規格 PVC-3950 準用) を適用する。 穴は, 円形またはだ円形であることとする。 ただし, 穴の径が 85mm 以下の場合には計算を行わない。 ここで, 最高使用圧力 P は, 次の式による値とする。 $P = 9.80665 \times 10^{-3} \cdot H \cdot \rho$ 開放タンクの胴に穴を設ける場合は, 3.2 項「容器の穴の補強計算」を適用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の相違 【東海第二, 柏崎 7】 ⑩の相違 ・設備の相違 【東海第二, 柏崎 7】 ⑪の相違 ・資料構成の相違 【東海第二, 柏崎 7】 ⑦の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			<p>・設備の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>島根2号機で2つ以上の穴が接近している</p> <p>クラス3容器はない</p>

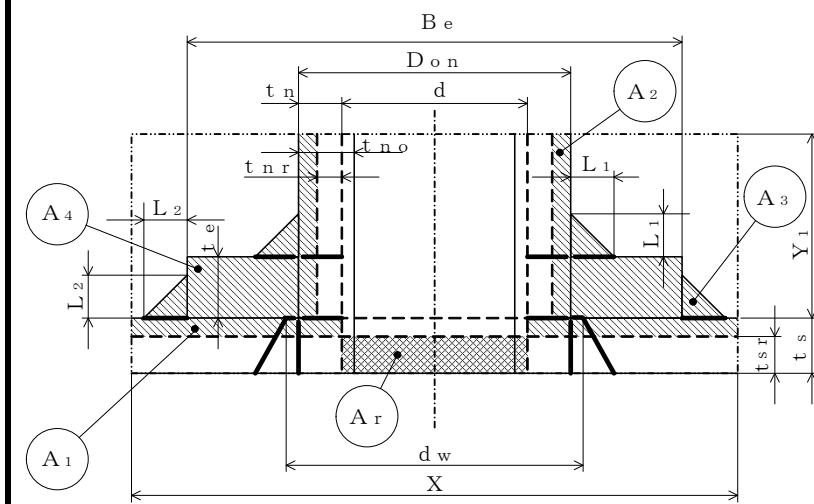
東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

・設備の相違
【東海第二】
 ⑨の相違

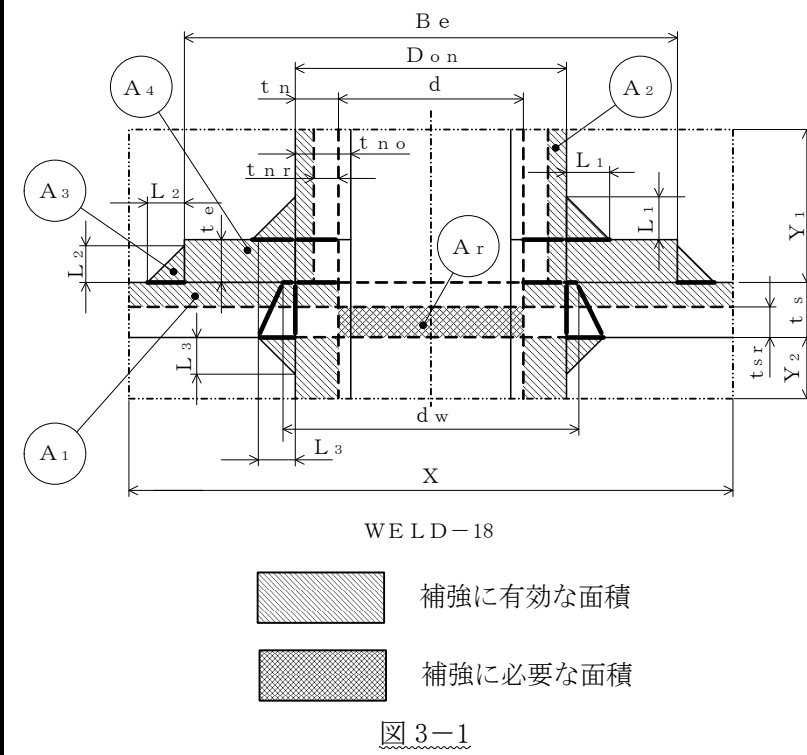


WELD-12

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

・設備の相違
【東海第二】
 ⑨の相違



東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑨の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			<p>・設備の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>島根 2号機で左記の計算が必要となるクラス3容器はない (以下, ⑫の相違)</p>

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ⑫の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ②の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ②の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ②の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ②の相違

別紙 容器の強度計算書フォーマット

VI-3-〇-〇-〇 〇〇〇の強度計算書

まえがき

本計算書は、VI-3-1-4「クラス 3 機器の強度計算の基本方針」及びVI-3-2-5「クラス 3 容器の強度計算方法」に基づいて計算を行う。

評価条件整理結果を以下に示す。なお、評価条件の整理に当たって使用する記号及び略語については、VI-3-2-1「強度計算方法の概要」に定義したものを使用する。

機器名	既設 or 新設	施設特有の技術基準に適合する施設の種類があるか	クラスアップするか				条件アップするか				既設に於ける評価結果の取扱い	施設固有の取扱い	評価区分	同等性評価区分	評価クラス	
			クラスアップの有無	施設固有のクラス	D/Bクラス	S/Aクラス	条件アップの有無	D/B条件 (圧力/温度)	S/A条件 (圧力/温度)							

目 次

1. 計算条件

1.1 計算部位

1.2 設計条件

2. 強度計算

2.1 開放タンクの胴の厚さの計算

2.2 開放タンクの底板の厚さの計算

2.3 開放タンクの管台の厚さの計算

2.4 開放タンクの補強を要しない穴の最大径の計算

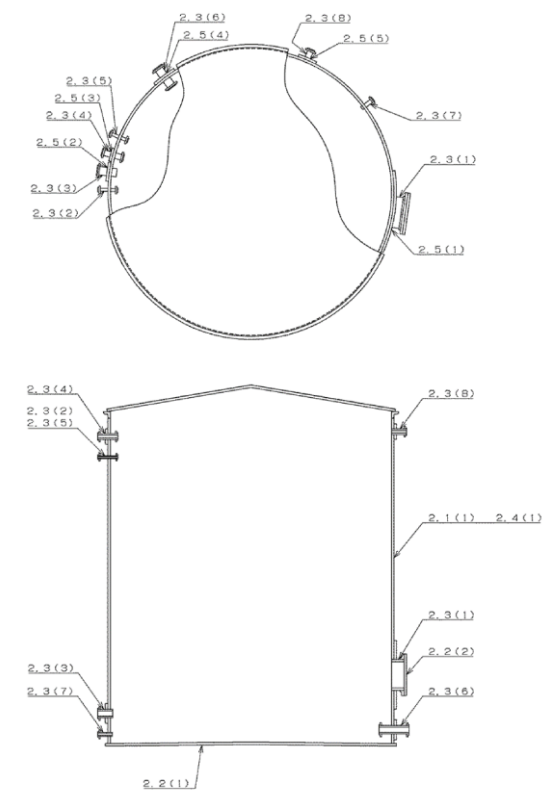
2.5 開放タンクの穴の補強計算

・記載方針の相違
【東海第二、柏崎 7】
島根 2 号機では評価条件整理表を添付する

1. 計算条件

1.1 計算部位

概要図に強度計算箇所を示す。



図中の番号は次頁以降の
計算項目番号を示す。

図 1-1 概要図

1.2 設計条件

最高使用圧力 (MPa)	静水頭
最高使用温度 (°C)	***

2. 強度計算

2.1 開放タンクの胴の厚さの計算

設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110 (PVC-3920 準用)

胴板名称	(1) 胴板
材料	
水頭 H (m)	
最高使用温度 (°C)	
胴の内径 D ₁ (m)	
液体の比重 ρ	
許容引張応力 S (MPa)	
継手効率 η	
継手の種類	
放射線検査の有無	
必要厚さ t ₁ (mm)	
必要厚さ t ₂ (mm)	
必要厚さ t ₃ (mm)	
t ₁ , t ₂ , t ₃ の大きい値 t (mm)	
呼び厚さ t _{so} (mm)	
最小厚さ t _s (mm)	
評価: t _{so} ≥ t, よって十分である。	

2.2 開放タンクの底板の厚さの計算

(イ) 設計・建設規格 PVD-3010 (PVC-3960(1) 準用)

底板の形: 平板

(ロ) 設計・建設規格 PVD-3010 (PVC-3970(1) 準用)

底板の厚さ

底板名称	(1) 底板
材料	
必要厚さ t (mm)	
呼び厚さ t _{so} (mm)	
最小厚さ t _b (mm)	
評価: t _b ≥ t, よって十分である。	

開放タンクの底板の厚さの計算

(イ) 設計・建設規格 PVD-3010 (PVC-3960(1) 準用)

底板の形: 平板

(ロ) 設計・建設規格 PVD-3010 (PVC-3970(2) 準用)

取付け方法及び穴の有無

平板名称	(2) 側マンホール平板
平板の取付け方法	(n)
平板の穴の有無	無し

・記載方針の相違
【柏崎 7】
⑤の相違

・設備の相違
【東海第二, 柏崎 7】
①の相違

(ハ) 設計・建設規格 PVD-3310 (J I S B 8 2 6 5 附属書 3 適用)

平板の厚さ

平板名称	(2) 側マンホール平板	
平板材料		
ボルト材料		
ガスケット材料		
ガスケット厚さ	(mm)	
ガスケット座面の形状		
最高使用圧力	P	(MPa)
最高使用温度		(°C)
平板の許容引張応力	S	(MPa)
ボルトの許容引張応力	常温(ガスケット締付時) (20°C)	S _a (MPa)
	最高使用温度(使用状態)	S _b (MPa)
ボルト中心円の直径	C	(mm)
ボルト呼び		
ボルト本数	n	
ボルト谷径	d _b	(mm)
実際のボルト総有効断面積	A _b	(mm ²)
ガスケット接触面の外径	G _s	(mm)
ガスケット接触面の幅	N	(mm)
ガスケット係数	m	
最小設計締付圧力	y	(N/mm ²)
ガスケット座の基本幅	b _o	(mm)
ガスケット座の有効幅	b	(mm)
平板の径 (ガスケット有効径)	d = G	(mm)
内圧による全荷重	W = H	(N)
使用状態での最小ボルト荷重	W _{m1}	(N)
ガスケット締付最小ボルト荷重	W _{m2}	(N)
ボルトの所要 総有効断面積	使用状態	A _{m1} (mm ²)
	ガスケット締付時	A _{m2} (mm ²)
	いずれか大きい値	A _m (mm ²)
ボルト荷重	使用状態	W _o (N)
	ガスケット締付時	W _g (N)
	いずれか大きい値	F (N)
モーメントアーム	h _g	(mm)
取付け方法による係数	K	
必要厚さ	t	(mm)
呼び厚さ	t _{p o}	(mm)
最小厚さ	t _p	(mm)
評価: t _p ≥ t, よって十分である。		

2.3 開放タンクの管台の厚さの計算

設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110 (PVC-3980 準用)

管台名称	(1) ○○○入口	
材料		
水頭	H	(m)
最高使用温度		(°C)
管台の内径	D _i	(m)
液体の比重	ρ	
許容引張応力	S	(MPa)
継手効率	η	
継手の種類		
放射線検査の有無		
必要厚さ	t ₁	(mm)
必要厚さ	t ₂	(mm)
t ₁ , t ₂ の大きい値	t	(mm)
呼び厚さ	t _{n o}	(mm)
最小厚さ	t _n	(mm)
評価: t _n ≥ t, よって十分である。		

・記載方針の相違
【柏崎 7】
⑤の相違

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考				
		<p>2.4 開放タンクの補強を要しない穴の最大径の計算 設計・建設規格 PVD-3511, PVD-3512</p> <table border="1" data-bbox="1745 363 2507 457"> <tr> <td data-bbox="1745 363 2131 394">胴板名称</td> <td data-bbox="2131 363 2507 394">(1) 胴板</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1745 394 2131 457">評価：補強の計算を要する85mmを超える穴の名称</td> <td data-bbox="2131 394 2507 457"></td> </tr> </table>	胴板名称	(1) 胴板	評価：補強の計算を要する85mmを超える穴の名称		<p>・設備の相違 【柏崎7】 島根2号機は「開放タンクの補強を要しない穴の最大径の計算」を実施するクラス3容器がある</p>
胴板名称	(1) 胴板						
評価：補強の計算を要する85mmを超える穴の名称							

2.5 開放タンクの穴の補強計算

設計・建設規格 PVD-3010, PVD-3110, PVD-3510 (PVC-3160, PVC-3950 準用)

・記載方針の相違
【柏崎 7】
⑤の相違

参照附図 WELD-18	
部材名称	(1) ○○○入口
胴板材料	
管台材料	
強め板材料	
最高使用圧力 P	(MPa)
最高使用温度	(℃)
胴板の許容引張応力 S_s	(MPa)
管台の許容引張応力 S_n	(MPa)
強め板の許容引張応力 S_e	(MPa)
穴の径 d	(mm)
管台が取り付く穴の径 d_w	(mm)
胴板の最小厚さ t_s	(mm)
管台の最小厚さ t_n	(mm)
胴板の継手効率 η	
係数 F	
胴の内径 D_i	(mm)
胴板の計算上必要な厚さ t_{sr}	(mm)
管台の計算上必要な厚さ t_{nr}	(mm)
穴の補強に必要な面積 A_r	(mm ²)
補強の有効範囲 X_1	(mm)
補強の有効範囲 X_2	(mm)
補強の有効範囲 X	(mm)
補強の有効範囲 Y_1	(mm)
補強の有効範囲 Y_2	(mm)
強め板の最小厚さ t_e	(mm)
強め板の外径 B_e	(mm)
管台の外径 D_{on}	(mm)
溶接寸法 L_1	(mm)
溶接寸法 L_2	(mm)
溶接寸法 L_3	(mm)
胴板の有効補強面積 A_1	(mm ²)
管台の有効補強面積 A_2	(mm ²)
すみ肉溶接部の有効補強面積 A_3	(mm ²)

部材名称	(1) ○○○入口
強め板の有効補強面積 A_4	(mm ²)
補強に有効な総面積 A_0	(mm ²)
評価: $A_0 > A_r$, よって十分である。	
大きい穴の補強	
補強を要する穴の限界径 d_j	(mm)
評価: $d \leq d_j$, よって大きい穴の補強計算は必要ない。	
溶接部にかかる荷重 W_1	(N)
溶接部にかかる荷重 W_2	(N)
溶接部の負うべき荷重 W	(N)
評価: $W < 0$, よって溶接部の強度計算は必要ない。 以上より十分である。	

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考

東海第二発電所 (2018. 10. 12 版)	柏崎刈羽原子力発電所 7号機 (2020. 9. 25 版)	島根原子力発電所 2号機	備考
			・設備の相違 【東海第二】 ②の相違